

同窓生シリーズ

(15)



つづくむねお
都竹武年雄氏

旧14回生(昭和15年卒業)。大正12年岐阜県生まれ。昭和17年9月旧制善隣高商戦時繰り上げ卒業。同年10月興亜院(大東亜省)張家口日本大使館文化部。21年4月引揚げ。55年以降は中国内蒙古自治区政府及び新疆ウイグル自治区政府の要請を受け、自治区の人材養成に協力する留学生受け入れ事業を担当する為に日本私立大学協会に在籍中。著書「蒙古高原の遊牧」「モンゴル見たまま、聞いたまま」

言えることは決して右翼的でもなく、神がかりでもなはい。校長の精神は、三位一体というもので先生・生徒そして父兄が有効な結合をしていなければ、学校の教育はできない。もう一つは知育・徳育・体育の三つのバランスがとれていなければ人格の形成はできない、これが教育の目的であるという建学の精神が公立高校でありながら、際立つて明確でした。

昨年、神戸の高校で校門圧死事件がありました。私たちがのしもやはり校門は開けたままですが、ベルが鳴ると門衛さんが出てストップさせ、朝礼が終るまで待たされる。朝礼、校長の訓示が終り、週によって服装検査があり、全員が教室に入りま

す。遅刻者たちはそれから「三笠の鐘」の所に並び校長が出てきてもう一度朝礼をやってくれるのです。これには僕たちはまいりましたね。

級長、副級長以外に一週当番の週番制度もあって、これが「はじめ、おわり」の号令をかけて「起立・礼・着席」又、教員室との連絡等を行います。週番はフェルトで裏打ちされ学校の記章の入った緑色の布を腕につけました。一年の時はいれしくつめたままよく家に帰りました。全員にそういう指導者教育をするのが目的なんです。公立学校として画期的だったのは、塩見の寮、谷川岳の水上寮を非常に早い時期から持っていました。私達の時から鳥山に農場を作り、二年生の時に今でいう研修寮ができました。一クラスが泊り集合教育という一週間全寮制、

を味わわせるのです。公立の学校でありながら自由によっていたというところが非常に印象に残っています。こういう雰囲気です。育って身近に満州から来た友人がいる蒙古人という、自然と大陸へ行つてという気持は中学の四、五年の頃から芽生えてきていました。善隣高等商業で中国語、トルコ語、蒙古語、チベット語のゼミを受け大陸へ行く準備をしていたが戦時繰り上げで、九月に卒業し校長と相談して大使館嘱託、蒙古政府嘱託など肩書を作って子どもに日本語を教えるという任務で、十八年の正月から蒙古の奥地での生活を始めました。八月十五日の終戦で一切が破算になり日本に帰国後企業などに勤めていました。

五十五年以内蒙古自治区政府の教育代表団が日本にきて留学生を送りたいが何とか方法がないのかということ、日本私立大学協会に相談したら私の前歴を知り、貴方がやるのならということ、で協会に移りました。自治区政府派遣という公費の研究員の形で大学の研究室で一、二年大学院レベルの研究をして、学力を高めて帰すということなのです。すでに百名以上が母国に帰り先生、指導者、研究者となって大活躍しています。引き受けた大学と向こうの大学が協定を結んで、交流のバイパスが太くなっているいろいろな意味で発展しています。

我々の育った時代は、日本のエネルギーが大陸に向かつていった激動の時代だったのです。

今回は、旧十四回生で日本私立大学協会に勤務し、中国の留学生のお世話等、大変なモンゴル通でおられる都竹氏にお話を伺いました。

私が入学した昭和十年は、日本が不景気から立ち直って満州事変のあと満州国建国がすみ、日本全体として赤化防止、ソ連からの共産主義が大陸を通して日本に入ってくる。これを満州国で防ぐという、いわゆる防共理論があった。すでに六中は卒業生を九期出して十四年目に入る時で、初代阿部宗孝校長は非常に油ののりきった、学校運営

に対して自信満々の時期でした。これが日本国家と六中の情勢であったと思います。当時、六中の位置は、五中まで出来ていた大正十一年東京の西部地区が発展し、そこに中学が必要になり八中までできました。最初は四中に間借りして、十二年に現在地に移りました。小田急・京王沿線には大学教授・軍人の子が多かった。阿部校長は、大変な皇室中心主義者であった。日本全体が天皇制を絶対なものとした教育勅語の教えるのも例の教育勅語の教えるのも一貫した教育を受けたいが、ただはつきり

有効な結合をしていなければ、学校の教育はできない。もう一つは知育・徳育・体育の三つのバランスがとれていなければ人格の形成はできない、これが教育の目的であるという建学の精神が公立高校でありながら、際立つて明確でした。

昨年、神戸の高校で校門圧死事件がありました。私たちがのしもやはり校門は開けたままですが、ベルが鳴ると門衛さんが出てストップさせ、朝礼が終るまで待たされる。朝礼、校長の訓示が終り、週によって服装検査があり、全員が教室に入りま

す。遅刻者たちはそれから「三笠の鐘」の所に並び校長が出てきてもう一度朝礼をやってくれるのです。これには僕たちはまいりましたね。

級長、副級長以外に一週当番の週番制度もあって、これが「はじめ、おわり」の号令をかけて「起立・礼・着席」又、教員室との連絡等を行います。週番はフェルトで裏打ちされ学校の記章の入った緑色の布を腕につけました。一年の時はいれしくつめたままよく家に帰りました。全員にそういう指導者教育をするのが目的なんです。公立学校として画期的だったのは、塩見の寮、谷川岳の水上寮を非常に早い時期から持っていました。私達の時から鳥山に農場を作り、二年生の時に今でいう研修寮ができました。一クラスが泊り集合教育という一週間全寮制、

を味わわせるのです。公立の学校でありながら自由によっていたというところが非常に印象に残っています。こういう雰囲気です。育って身近に満州から来た友人がいる蒙古人という、自然と大陸へ行つてという気持は中学の四、五年の頃から芽生えてきていました。善隣高等商業で中国語、トルコ語、蒙古語、チベット語のゼミを受け大陸へ行く準備をしていたが戦時繰り上げで、九月に卒業し校長と相談して大使館嘱託、蒙古政府嘱託など肩書を作って子どもに日本語を教えるという任務で、十八年の正月から蒙古の奥地での生活を始めました。八月十五日の終戦で一切が破算になり日本に帰国後企業などに勤めていました。

五十五年以内蒙古自治区政府の教育代表団が日本にきて留学生を送りたいが何とか方法がないのかということ、日本私立大学協会に相談したら私の前歴を知り、貴方がやるのならということ、で協会に移りました。自治区政府派遣という公費の研究員の形で大学の研究室で一、二年大学院レベルの研究をして、学力を高めて帰すということなのです。すでに百名以上が母国に帰り先生、指導者、研究者となって大活躍しています。引き受けた大学と向こうの大学が協定を結んで、交流のバイパスが太くなっているいろいろな意味で発展しています。

我々の育った時代は、日本のエネルギーが大陸に向かつていった激動の時代だったのです。